

紀尾井だより

11/12

November / December
2024

Vol.168



紀尾井ホール室内管弦楽団
第141回 定期演奏会

[邦楽インタビュー]
友枝雄人

徳丸吉彦 山口智子 対談
邦楽をたのしもう! (第3回)

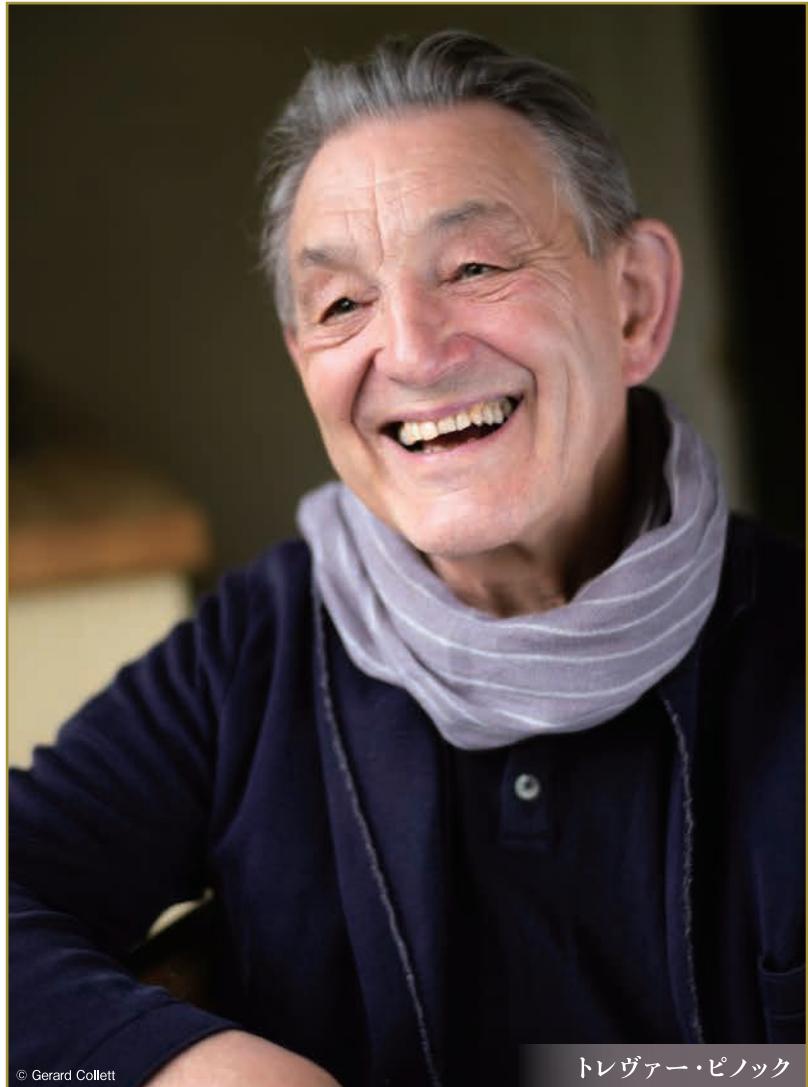
連載
[クラシック音楽のテーマに基づく3話]
幻想曲をめぐる3つの話

完璧なオペラを完璧な布陣で

演奏会形式による理想の上演

紀尾井ホール室内管弦楽団 《コジ・ファン・トゥッテ》への期待

文／加藤浩子(音楽評論家)



『コジ・ファン・トゥッテ』は完璧なオペラ。以前あるところで、演奏会形式によるモーツアルト『ドン・ジョヴァンニ』と『コジ・ファン・トゥッテ』を三夜連続で一気に聴いた時、そう痛感しました。

『フィガロ』や『ドン・ジョヴァンニ』より『コジ』の方が完璧とは?と思う方もいらっしゃるでしょう。他の2作の方が人気は上ですし、ヒットメロディもあればストーリーも変化に富んでいるのですから。それに対して『コジ』は地味かもしれません。どこかで聴いたヒットメロディもなければ、ストーリーも不可解。友人同士の男性2人が、老哲学者から持ちかけられた賭けに乗り、変装して互いの恋人を口説いたらあっさり陥落。それも1日のうちに! 納得できないのももつともです。

けれど『コジ』の音楽とストーリーは、バズルのように見事にはまっています。『コジ』は全2幕、31曲で構成されますが、1曲として無駄な曲がないのです。6人の登場人物にはそれぞれはつきりしたキャラクターがあり、音楽は変幻自在に彼らの性格を語り、心の変化を追います。真面目な姉と軽薄な妹、真摯そのものとややお調子者の2人の青年、姉妹をそそのかすやり手の小間使い、物語を操るシニカルな老哲学者…。モーツアルトの音楽が描く彼らの心のドラマは、シンプルなようでいて実は複雑です。

『コジ』の大きな特徴は、アンサンブル重唱の充実です。『コジ』では、全31曲のうちアリアが12曲に対し重唱は15曲と、重

唱の方が多くなっています。重唱の比重の高さは、モーツアルト・オペラ随一。本作で重要なのは人物同士の関係性であり、それがどんどん変わっていくことが、「二重唱から六重唱までヴァラエティ豊かな重唱によって示されるのです。

例として、姉妹が口説き落とされる二つ二重唱を見てみましょう。まず妹の「ドラベツラ」と、姉の恋人であるグリエルモの二重唱「このハートを差し上げます」(第23曲)。ここでは2人は初めからほぼ同じ音



© 武藤章

樂でやりとりし、あつという間に同じ旋律を一緒に歌つて、同意に至つたことを示します。2人とも最初から「その気」なのです。

一方、フィオルディリージとフェッランンドの二重唱「私はまもなく許嫁の腕の中に」(第29曲)は、そう簡単ではありません。戦

場で恋人との再会を夢見るフィオルディリージを、切ないホ短調で飛び込んできたフェッランンドが必死に口説く。2人の音樂はじわじわと接近し、そしてついに声をそろえて同じ旋律を歌い始めます。男女が恋に落ちる決定的な瞬間

を、モーツアートは息が止まるほど美しい音楽であぶり出しました。

実はフィオルディリージとフェッランンドも、氣質は眞面目。こう見てみると《コジ・ファン・トゥッテ》は、眞実の愛に巡り合う物語なのかもしれないのです。不自然に感じられるさまざまなる物語が1日のうちに終わるとか、「変装」とか、無理やりの「ハッピーエンド」などは、古典劇の決まりごとに縛られているため。それを取り払った時、《コジ》の本質的なテーマが見えてきます。

それでも納得できないのは、口説きが「偽り」であり、女性たちが欺かれているからでしょう。けれど偽りの求愛によって恋人を試す物語は、当時のウィーンで人気で

した。サリエリの《やきもち焼きの学校》《トロフォーニオの洞窟》、アンフォッシの《無分別な物好き》などがそれにあたります。

《コジ》は本来、サリエリが作曲するはずでした。台本を書いたダ・ポンテは、サリエリがこの手のオペラで成功したことを考えたのでしょう。けれどサリエリはわずか2曲作曲しただけで投げ出してしまい、モーツアルトにお鉢が回ってきたのです。モーツアルトは、当初予定されていたタイ

トルの《恋人たちの学校》を副題にし、《フィガロの結婚》第1幕の三重唱に出でくる「コジ・ファン・トゥッテ」女はみんなこうしたもの」というセリフを正式なタイトルにしました。その三重唱では、小間使いのスザンナのベッドに小姓のケルビーノが隠れており、それを発見した音楽教師のバジーリオが「女はみんなこうしたもの」(『浮気っぽい』)と呟くのです。《コジ》では、第30曲の「男は皆女を責めるが」でドン・アルフォンソと青年2人がこのセリフを歌いますが、この旋律は《序曲》にも使われ、物語のメインテーマを強調します。

《フィガロ》のスザンナは潔白でした。一方《コジ》では、女性たちは本当に浮気をしてしまいます。いや浮気なのか、本気なのか、多分誰にもわからないけれどそれこそ、人間というものではないでしょうか。《コジ》は「ダ・ポンテ三部作」の、いやありとあらゆるオペラのなかで、もっとも普遍的で、人間的なオペラの一つなのです。

ジングな作品です。(中略)何より、音楽は最高です。モーツアルトは音楽を通して全てを語っているのです」。

今回指揮をとるトレヴァー・ピノックの言葉は、本作の魅力と本質を見事に言い当てています。

それでも納得できないというかたは、どうぞ音楽に集中してください。《コジ》の音樂は、物語を傍らにおいても引き込まれます。

演奏会形式は、その魅力を味わうのに理想的。今回、若く、力があり、日欧のオペラ界の第一線で活躍する強力なキャストが揃ったこと、そして音楽の持つ生命力を120%生かし、声とオーケストラのバランスを知り尽くしたピノックが指揮することでの《コジ》の音楽の素晴らしさがどことんまで引き出されることでしょう。

モーツアルトの完璧な傑作を、完璧な布陣で味わえる稀有な機会。「目から鱗」の体験があなたを待っています。

紀尾井ホール室内管弦楽団 第141回 定期演奏会 モーツアルト歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》

[出演]

トレヴァー・ピノック(指揮)
マンディ・フレードリヒ(ソプラノ)
小泉詠子(メゾソプラノ)※
コンスタンティン・クリムル(バリトン)
マウロ・ペーター(テノール)
ラウリーナ・ベンジューナイテ(ソプラノ)
平野 和(バス・バリトン)

[曲目]

モーツアルト 歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》K.588 [演奏会形式]

2025
3/14
金
18:00

2025
3/16
日
14:00

※ドラベッラ役に出演をお預りしておきました湯川亞也子は、本人の都合により出演できなくなりました。ご了承ください。

美しく高貴な女性の苦悩を舞う

ともえだたけひと

友枝雄人

なりますし、地謡を勤めているとシテの気迫によつてこちらの気迫を引き出されるように感じることがあります。

音楽でつづる文学シリーズ第8回は、『源氏物語』最後のヒロイン、浮舟を題材とする箏組歌、地歌、能を上演。半能『浮舟』でシテを舞う友枝雄人さんに、その魅力や楽しみ方をうかがいました。

——今日は「音楽でつづる文学」シリーズとしての上演ですが、能において音楽性は非常に重要な要素ですね。

——能には『源氏物語』を題材とする曲が幾つもあります。能における『源氏物語』の位置づけと、その中での『浮舟』の魅力を教えていただけますか？

「三番目物」もしくは「鬘物」と呼ばれる優美な能は、多くが『源氏物語』や『伊勢物語』を題材としています。男女の織りなす関係が描かれており、本居宣長の「言う」ものあはれ、「人間の心のヒダ、感情を扱つたものが多いため、能の演目の中でも中心的な存在として伝承されてきました。『浮舟』の主人公は、積極的な匂宮と優しく品性ある薰の両方に惹かれて悩み、自分の煩惱と決別するため身を投げようとする女性で、死後も成仏できずにいます。『源氏物語』の「宇治十帖」を読んでいる人達を想定して作られた曲で、

登場人物の性格やそれまでの経緯などが少しあかりにくいので、実はどの流儀でも上演頻度が高くはないんですね。しかし、人間にはそれぞれ、他の人に言えない思いがありますよね。そこに現代に通じるテーマ性があり、最近では上演が増えてきています。(伯父で人間国宝の)友枝昭世も好きで何回か舞っていますし、私も前回勤めて以来、いざれまたやりたいと思つていました。とはいっても、そうした

テーマをあからさまに表現した曲ではないので、演じ手もあからさまではなく、でもしつかり伝えなくてはなりません。

——1曲のうち後半のみの“半能”としての上演になります。どのように舞いたいとお考えですか？

後シテである浮舟の靈は、かつて自分が身を投げようとした時の状況を再現し、狂乱状態になります。そんな浮舟の苦しみを表現するように、謡の節が独特で、囃子との息の合わせ方も複雑になつていてのが、この曲の難しさであり面白さですね。通常は“小面”という可愛らしい面を使うのですが、私は以前、今回のチラシに載つてある写真のとおり、浮舟の苦惱を表すため、眉間にしわの寄つた“増髪”という面を使いました。しかし、やはり薰と匂宮

という二人の美男子から言い寄られる女性ですから、この面を使うにしても浮舟が美しい女性であることは伝わらなければなりませんし、舞台姿からも匂い立つような美しさが必要になつてきます。紀尾井小ホールという空間での見え方を考え、これから面と装束を選びたいですね。そして最後は成仏するので、すーと煩惱が抜けるような終わり方にしたいと思っています。

——そうしたことを「あからさま」には表現しないのが、能ならではですね。

一概には言えませんが、あからさまに伝えようとすると、ご覧になつた方々の後味といいますか、劇場を去られてお帰りになる道すがら、よいものが残らない気がするんです。やはり能樂は、その時だけでなく、終わったあと、ご覧いただいた皆さんの中ほどのように残るかが大切。それが能の伝え方の一つの感性なのではないでしょうか。初めてご覧になる方でも、『浮舟』の舞と謡と囃子の複合には、力強さを感じていただけることでしょう。能の場合には詞章も文語で、掛詞などを織り交ぜて作られていますから、現代劇のように全てを理解するというより、耳に残つた言葉を頼りに、なんとなく空間の雰囲気や物語の流れを感じ取つていただけたら幸いです。

文／高橋彩子(演劇・舞蹈ライター)

音楽でつづる文学8 源氏物語－浮舟－

[出演] 萩岡松柯(箏)
米川敏子(箏)
大学敏悠(三絃)
青木鈴幕(尺八)
友枝雄人(シテ)、御厨誠吾(ワキ)
栗林佑輔(笛)、成田達志(小鼓)
亀井洋佑(大鼓)、粟谷浩之、谷友矩(後見)
佐藤陽、粟谷充雄、内田成信、佐藤寛泰(地謡)
野川美穂子(お話)
[曲目] 『源氏物語』に描かれる浮舟、箏組歌「橋姫」
地歌「新浮舟」、半能「浮舟」

12/18
水
18:30

音楽でつづる文学8

源氏物語－浮舟－

幻想曲をめぐる

3つの話



フランス・シューベルト(1825年)

「おお幻想よ！汝、人間の至高の宝、汝、芸術家も学者も飲むことのできる、尽きぬ泉よ！……」啓蒙という、肉も血もない忌むべき骸骨から、われらを守りたまえ！」——これはフランス・シューベルトが1824年の日記に綴った一節。合理性をよしとする「啓蒙」を批判し、幻想こそ芸術の要件ととらえるこの叫びは、とても口

バッハ、ベートーヴェン、モーツアルト……幾多の作曲家が自由な想像力で創作した「幻想曲」の魅力に迫る3つのお話です。

1 魂からあふれ出る音楽

想像力は、西洋の芸術音楽に欠くことのできない要素。とりわけ作曲する際の想像力は「幻想(ファンタジー)」と呼ばれています。そこで、この3つの話では、作曲者たちの「魂からあふれ出る音楽」をめぐる3つの話題を紹介します。

2 ファンタジアの二面性

「おお幻想よ！汝、人間の至高の宝、汝、芸術家も学者も飲むことのできる、尽きぬ泉よ！……」啓蒙という、肉も血もない忌むべき骸骨から、われらを守りたまえ！」——これはフランス・シューベルトが1824年の日記に綴った一節。合理性をよしとする「啓蒙」を批判し、幻想こそ芸術の要件ととらえるこの叫びは、とても口

バッハ、ベートーヴェン、モーツアルト……幾多の作曲家が自由な想像力で創作した「幻想曲」の魅力に迫る3つのお話です。

3 コンサート用小品として

想像力は、西洋の芸術音楽に欠くことのできない要素。とりわけ作曲する際の想像力は「幻想(ファンタジー)」と呼ばれています。そこで、この3つの話では、作曲者たちの「魂からあふれ出る音楽」をめぐる3つの話題を紹介します。

1853年、ロベルト・シューマンは、22歳のヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムに出会って感銘を受け、ヴァイオリンのレパートリーが少ないというヨアヒムの要望に応えて「ヴァイオリンと管弦楽のための幻想曲 op.131」を書きました。ヨアヒムは、同年に若きヨハネス・ Brahms をシューマン夫妻に引き合わせた恩人。それだけではなく、ヴァイオリン・パートの運弓や運指について助言したり、作曲者の死

演奏者の魂からいやとうなく生じたように聴こえるファンタジアというジャンルが好まれるようになります。

ファンタジアの特徴は、おおよそ次のとおり。慣習に沿わない形式。断片的で、互いに関連がなさそうなフレーズ。自由なりズムとテンポ。定石破りの和声——このよう

うにファンタジアは、1つのテーマを丁寧にじっくりと展開するのではなく、予測不可能な軌道で気ままに進みます。あたかも役者のモノローグのよう。ジャンルジャック・ルソーは、このジャンルを「作曲しながら演奏する器楽」と形容しました。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの「合唱幻想曲 op.80」冒頭が、その好例です。ピアノ独奏の即興的なパッセージで始まるこのファンタジア(幻想)を、当時の批評家たちは「感じたものを純粋に語りだす獨白」「音楽による自画像」と受け取りました。

マン主義的です。

とはいって、ファンタジアがあまりに行きすぎて完全な無秩序に陥ることには、警鐘が鳴らされていました。また、作曲者の側にも「即興的で気ままに移り変わる」曲に聴こえるよう計算が働くこともあったようです。

シューベルトの「幻想曲ハ長調 D934」も、即興性と計画性をあわせもちます。ソナタのように4つの楽章をつなぎあわせた明快なつくり。以前に登場したモティーフが終盤で戻ってくるなど、連闊に対する意識。さらに、ややマニアックですが、ハ長調(C-dur)、イ短調(A-moll)、変イ長調(A-s-dur)、ハ長調(C-dur)と進むこの曲の構造は、冒頭9小節でピアノが奏てるC—A—A-s—Cというバス進行に予告されているのです。

後もこの曲を弾いたりしてくれました。

このように、もともとは私的なジャンルだった幻想曲は、19世紀が進むにつれ、ブリリアントな技巧をとり入れた「コンサート映えする」性格も備えていきます。なお、この幻想曲のピアノ伴奏バージョンについては、21世紀に入つてブライトコップ&ヘルテル社から最新版が出版されました。

協奏曲とは一味異なる管弦楽曲としても、親密な室内楽作品としても、私たちの耳に触れる機会が増えてゆくでしょう。

参考図書：マーク・エヴァン・ボンズ「ベー

トーヴエン症候群——音楽を自伝として聴く」堀朋平・西田紘子訳、春秋社、2022年。

文／西田紘子(音楽学者)

紀尾井レジデント・シリーズ III 青木尚佳(第2回) “Fantasy”

[出演]
青木尚佳(ヴァイオリン)
ボリス・クズネツォフ(ピアノ)、早川りさこ(ハープ)
[曲目]
シェーンベルク：幻想曲 op.47
シューベルト：幻想曲ハ長調 D934
シューマン：幻想曲ハ長調 op.131
サン＝サーンス：幻想曲 op.124
サラサーテ：カルメン幻想曲 op.25

12/6
金
19:00

日鉄ソリューションズプレゼンツ
紀尾井ホール室内管弦楽団特別演奏会

KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2025 公開リハーサルに先着400名様を ご招待！

2025年1月に開催する「KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2025」の公開リハーサルを行います（無料）。普段なかなか観ることができない、指揮者とオーケストラの音楽づくりを間近で体験できる貴重な機会。抜群の音響を誇る紀尾井ホールとKCOの卓越した演奏に触れてみませんか？どなたでもお申込みいただけます*。ふるってご応募ください。

*未就学児のご入場はご遠慮ください。小学生は保護者が同伴でご来場ください。

日時 2025年1月15日(水) 16:30~17:30

場所 紀尾井ホール

定員 400名(事前申込制、先着順、自由席)

【募集期間】12月5日(木)~2025年1月8日(水)

■応募方法など、詳しくは紀尾井ホールウェブサイトからご覧ください



今号の表紙

演奏の間にホッと一息。バーコーナー(2F)

開館時から営業を続けているバーコーナー（紀尾井ホール2階）。開演前のワクワクした気持ちを盛り上げたり、休憩中にホッと一息ついたりと、大切な交流の場です。紀尾井ホールの桜葉マークが入ったオリジナルグラスはさまざまな形状のものをご用意。お飲み物によって最適なグラスで提供しています。



天皇ご一家 紀尾井ホールにご来場



9月3日(火)開催の「ストラディヴァリウス・コンサート2024」(主催:日本製鉄文化財団・日本音楽財団)に、天皇皇后両陛下と長女愛子さまがご来場されました。

開館30周年を記念して ホール各所を装飾しています。

ご来場の際にぜひご覧ください。



紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員（五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略）

《特別協賛会員》住友商事／日鉄ソリューションズ／三井不動産／三井物産／三菱商事／三菱地所

《みやび会員》伊藤忠商事／大島造船所／鹿島建設／商船三井／菅原／住友商事／Dr.かすみ永田町クリニック／日本郵船／丸紅／三井住友銀行／三井住友信託銀行／三井不動産／三井物産／三菱商事／三菱地所／メタルワンほか匿名2社

《ひびき会員》大林組／オカムラ／高砂熱学工業／竹中工務店／東京さらばしフィナンシャルグループ／山下設計

《みどり会員》青鬼運送／赤坂維新號／今治造船／ヴォートル／エーケーディ／荏原冷熱システム／ザ・キャピトルホテル東急／三協／清水建設／上智大学／西武リアルティソリューションズ／大成建設／千代田商事／テイエース・ライフ／東芝ライテック／永田音響設計／ニュー・オータニ／ハウス食品グループ本社／パナソニック／みずほ証券／三菱UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／ミュージション／明治座舞台／ヤマハサウンドシステム／ワークショップ21

《あおい会員》青木陽介／浅沼雄二／浅見恵／石崎智代／磯部治生／伊藤眞理子／岩城宏斗司／上野真志／馬屋原貴行／大内裕子／大垣尚司／大久保なほ子／太田清史／大花謙一／小川保／小倉ヒロ・ミヒヤエル／糟谷敏秀／片山國正／片山能輔／加藤巻恵／加藤優一／神川典久／川口祥代／川島知恵／菊池恒雄／木谷昭／楠野貞夫／栗山信子／河野紗妃／小坂部恵子／斎藤公善／坂詰貴司／坂根和子／佐久間庸行／桜林哲生／佐野千紘／佐部いく子／澤田紀子／潮崎通康／柴田雅美／清水正／清水多美子／清水康子／白土英明／鈴木順一／鈴木亮／高下謹壱／田中進／陳艶君／田頭亞里／戸田純也／中塚一雄／中西達郎／中野洋子／中村健司／中村昌子／中山昌樹／原田清朗／藤村行俊／冬木寛義／北條哲也／堀川将史／牧本恵美子／松枝力／松尾芳樹／松本美恵／丸井正樹／水口美輝／簗輪永世／宮島正次／宮田宣子／宮武悦子／宮原薰／宮本信幸／陸田実／村上喜代次／村上敏子／持留宗一郎／八木一夫／八木晶子／矢田部靖子／山内寿実／山口彰／山口聰／横手聰／吉田季光／吉見亨／渡邊一夫

ほか匿名41名 計240口

(2024年10月1日現在)

特別支援会員（五十音順・「株式会社」等表記略）

アステック入江／五十鈴／NSユナイテッド海運／NSユナイテッド内航海運／エヌエスリース／エヌテック／王子製鉄／大阪製鐵／九築工業／草野産業／黒崎播磨／合同製鐵／鴻池運輸／小松シヤリング／山九／産業振興／三晃金属工業／サンユウ／三洋海運／山陽特殊製鋼／ジオスター／新日本電工／スガテック／大同特殊鋼／大和製罐／高砂鐵工／高田工業所／鶴見鋼管／DNPエリオ／テツゲン／電機資材／東海鋼材工業／東邦シートフレーム／トピー工業／日亜鋼業／日鉄SGワイヤ／日鉄エンジニアリング／日鉄片倉鋼管／日鉄環境／日鉄ケミカル＆マテリアル／日鉄建材／日鉄鋼管／日鉄鉱業／日鉄工材／日鉄鋼板／日鉄興和不動産／日鉄スチール／日鉄ステンレス／日鉄ステンレス鋼管／日鉄精工品／日鉄精密加工／日鉄ソリューションズ／日鉄テクロジー／日鉄テックスエンジ／日鉄ドラム／日鉄物産／日鉄物流／日鉄プロセッシング／日鉄保険サービス／日鉄ボルテン／日鉄溶接工業／日鉄レールウェイテクノス／日本金属／日本触媒／濱田重工／富士鉄鋼センター／不動テトラ／北海鋼機／幕張テクノガーデン／三島光産／宮崎精鋼／吉川工業／ワコースチール／日本製鉄

(2024年10月1日現在)

フォトレポート

9.3(火) 日本音楽財団共同企画 日本音楽財団創立50周年記念公演 ストラディヴァリウス・コンサート 2024



9.20(金)・21(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第140回定期演奏会



9.24(火) 和生・勘十郎・玉男三人会 第三回「一谷嫗軍記 熊谷陣屋の段」「伽羅先代萩 政岡忠義の段」



主催公演チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

そのほかチケットぴあ、イープラス(クラシック公演のみ)
CNプレイガイド(電話予約:0570-08-9999/10:00~18:00年中無休)
でもチケットを取り扱っています。

紀尾井ホール
にっぽんせいいてつ
公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号
TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

公演の最新情報などは
こちら

